

**製品名: ULK2 ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab19622**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	140kDa

## 抗原情報

遺伝子名	ULK2 KIAA0623
別名	ULK2 KIAA0623
遺伝子 ID	9706.0
SwissProt ID	Q8IYT8
免疫原	アミノ酸範囲 930~1000 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

## 背景

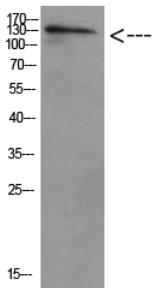
unc-51 類似オートファジー活性化キナーゼ 2 (ULK2) Homo sapiens この遺伝子は、軸索伸長に関与する C. elegans のセリン/スレオニンキナーゼに類似したタンパク質をコードしています。このタンパク質の構造は、C. elegans のタンパク質と類似しており、

どちらのタンパク質も N 末端キナーゼドメイン、中央のプロリン / セリンリッチ (PS) ドメイン、および C 末端 (C) ドメインを持っています。この遺伝子は、17 番染色体のスミス・マゲニス症候群領域内に位置しています。同じタンパク質をコードする選択的スプライシング転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2008 年 12 月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質、PTM: 自己リン酸化、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。APG1/unc-51/ULK1 サブファミリー。類似性:1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。

## 研究分野

オートファジーの制御;mTOR;

## 画像データ



HELA 細胞のウェスタンブロット分析。抗体は 500 倍希釈。二次抗体は 1:20000 倍希釈。